

会報 第44号

● 発行者 ●
 栃木県立真岡北陵
 高等学校同窓会
 ● 編集 ●
 同上編集委員会
 ● 印刷所 ●
 (株) 井上総合印刷



藤野 康之
 校長

コロナ禍の一年の報告

令和三年の新年を迎え、同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校教育活動に對しまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

はじめに、私事ではありますが、押久保校長の後任として四月から本校に着任した藤野康之です。私が新規採用で着任したのは、創立八〇周年を迎えた真岡農業高校でした。そして一二年目を迎える伝統ある本校に戻れたことをうれしく思うとともに、重責を担っていることを痛感しております。本校生徒と真岡北陵高校の発展のために、精一杯取り組む所存でございますので、同窓会の皆様にはなお一層のご支援並びにご教授をお願い申し上げます。

さて、令和二年は新型コロナウイルス感染症防止のため、前例の無い年であります。同窓会の行事もほとんどが中止となり、皆様にお会いする機会もほとんど無く、学校の様子をお伝えすることができませんでした。

ができませんでした。

で、紙面を借りてご報告させていただきます。

令和二年三月二日には、在校生が同席せず、来賓を縮減し、時間を短縮するなどの制限をした卒業式を終えた後、生徒は臨時休業となりました。四月からは令和二年度となりまして、これより通常登校として学校が再開されました。しかし通常通りではなく、マスク、手指消毒、ゴミの持ち帰り、食事中の会話制限など多くの新しい学校生活様式が始まりました。そして夏休みは、一学期終業式を五日遅らせ、二学期始業式を五日早めて、合計十日間短縮しました。第二学期は十八週という長い学期となりました。学校祭は文化部の発表を録画し、学年毎体育館で放映するのみ。体育祭、収穫祭は中止しました。修学旅行も十月六日から三泊四日の

十月六日から三泊四日の

予定を三月十六日に延期して状況を確認しながら検討しております。ほかに、部活動や資格取得・インターシップなどの校外実習や体験が中止となっております。

例年は本年度の生徒の活躍の数々をこの紙面でご紹介しております。また、上記の通り高野連、高体連、高文連とも大会をほぼ中止しました。そんな中でも、生徒たちは通常授業、部活動や課外の活動を直向きに取り組んでいます。いくつかご報告いたします。

また、卓球部は県新人男子学校対抗でベスト16。バドミントン部も団体・女子団体ともベスト16。女子バレーボール部は三回戦進出の活躍でした。

また、卓球部は県新人男子学校対抗でベスト16。バドミントン部も団体・女子団体ともベスト16。女子バレーボール部は三回戦進出の活躍でした。

また、卓球部は県新人男子学校対抗でベスト16。バドミントン部も団体・女子団体ともベスト16。女子バレーボール部は三回戦進出の活躍でした。

また、卓球部は県新人男子学校対抗でベスト16。バドミントン部も団体・女子団体ともベスト16。女子バレーボール部は三回戦進出の活躍でした。

また、卓球部は県新人男子学校対抗でベスト16。バドミントン部も団体・女子団体ともベスト16。女子バレーボール部は三回戦進出の活躍でした。

が優良賞。栃木産地消費大賞では、食品科学研究部が優秀賞を受賞しました。

また、農業クラブが県東健康福祉センターにシクラメン寄贈。介護福祉科が高齢者へのメッセージカード作成、介護実習代替の取り組みなど多数の活躍が新聞で紹介されました。

そして、進路においては、宇都宮大学を始め二桁の四年生大学への合格の他、短大や専門学校、就職において、進路実現を果たすことができました。

これらの活躍は、ホームページに掲載しております。また、本年度よりホームページ上に同窓会のコーナーを設け、同窓会報を掲載することとしました。バックナンバーもございますので、ぜひご利用頂ければ幸いです。

最後にありますが、今後もパンデミックの状況がどうなるか予想ができません。教職員一丸となって、本校の教育活動を止めずに、安全に配慮しつつ生徒の活動を盛り上げて行く所存です。同窓会の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。会報発行のご挨拶といたします。

最後にありますが、今後もパンデミックの状況がどうなるか予想ができません。教職員一丸となって、本校の教育活動を止めずに、安全に配慮しつつ生徒の活動を盛り上げて行く所存です。同窓会の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。会報発行のご挨拶といたします。



同窓会会長
 廣田 茂十郎

コロナ禍に思う

令和三年の新年を迎え、同窓会の皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、あらゆる社会経済活動に大きな影響を及ぼしています。母校においても、活動がいろいろと制限され、生徒の皆さん、校長先生をはじめとする先生方も、御苦労されていること察しております。

校訓の「今日あるを感謝し、最善を尽くす」は二宮尊徳先生の報徳の精神に基づくものですが、先生はこんな事も言っています。

「大事をなさんと欲せば小なる事をおこたらず動むべし」(略)：千里の道も一歩ずつ歩みて至る、山を成すも一簣の土より成る事を明らかにわかきまえて、励精、小さな事を動めば、大なる事必ず成るべし」

「大事をなさんと欲せば小なる事をおこたらず動むべし」(略)：千里の道も一歩ずつ歩みて至る、山を成すも一簣の土より成る事を明らかにわかきまえて、励精、小さな事を動めば、大なる事必ず成るべし」

「大事をなさんと欲せば小なる事をおこたらず動むべし」(略)：千里の道も一歩ずつ歩みて至る、山を成すも一簣の土より成る事を明らかにわかきまえて、励精、小さな事を動めば、大なる事必ず成るべし」

「大事をなさんと欲せば小なる事をおこたらず動むべし」(略)：千里の道も一歩ずつ歩みて至る、山を成すも一簣の土より成る事を明らかにわかきまえて、励精、小さな事を動めば、大なる事必ず成るべし」

「マスクの着用」「三密を避ける」等の小さな事の積み重ねが、コロナから身を守る事でもあります。そうした小さな事を大切に積み重ねる姿勢が、生徒の皆さんの将来を切り開くことに繋がると思っています。

コロナによる、様々な困難はありますが、困難にどう対処するか、どう乗り越えるかは、人類にとっては、大きな経験と実績になるはずで、母校は今年創立百十四年目を迎えますが、その歩みの中で、まさに「地域のリーダー」を輩出し続けてきた長くて深い歴史があります。

先輩方は今までも、多くの困難に立ち向かい、新しい時代を切り開いてきました。北陵高校には、こうした精神を持つ「地域後継者」を輩出する校風があります。

結び、母校と本会のみならず、生徒の皆さんのご活躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

結び、母校と本会のみならず、生徒の皆さんのご活躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

結び、母校と本会のみならず、生徒の皆さんのご活躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

結び、母校と本会のみならず、生徒の皆さんのご活躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

青年部部長 あいさつ

平成二十三年度卒
川 澄 聖 人



今年度、同窓会青年部部長を仰せつかっております。川澄 聖人です。

この度、会報の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。日頃より青年部活動に對しまして、格別のご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。

同窓会青年部の主な活動として私たちが一番重点を置いていますが、学校祭での焼きそば販売です。今年度は私が部長を受けてから初と言うこともあり前年の反省などを話し合い、さらに良くするために奮闘しております。

また、コロナの影響もあり前年度の活動のようにはいかず、不完全燃焼に終わってしまいました。ですが、その分来年度はさらに力を入れ、みなさんの高校生活の思い出、これから先の刺激になればいいと思っております。

私たちの活動に興味を持ってくださったなら、卒業してから一緒に焼きそばを焼きましょ！最後になりますが、今後とも青年部活動にご指導、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

P T A 会長挨拶

P T A 会長
大 塚 貴 久



日頃より同窓会の皆様には、生徒達のため、そしてPTA活動に對してご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で北陵高においても四月から休校となり、PTA活動につきましても例年通りできず、もどかしい思いをしました。

しかし、北陵高PTAは同窓会同様、諸先輩方が築き上げた伝統があります。これからも生徒たちのため、先生方と共に学校のサポートをしていく所存です。

来年度こそ、現在の情勢が落ち着き、PTA活動をとおして子供たちが笑顔溢れる北陵高になってもらえればと考えています。

「今日あるを感謝し最善を尽くす」この校訓のもと、どのような状況でも一日一日を大切に子供たちが活動してくれていきます。部活動に特別活動、制限はあるものの生徒たちは活躍してくれています。

法務副大臣就任おめでとうございます

法務副大臣 衆議院議員 田 所 嘉 徳



真岡北陵高校同窓会の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。

私は、昨年九月に発足した菅内閣において法務副大臣に就任いたしました。天皇陛下の認証を受け、国家の中核で働けることに大きな感慨を感じております。

北陵高校で教育していただいたお蔭であると、深く感謝いたしております。農家の長男は家業を継ぐことが当たり前の時代でしたので、歴史ある真岡農業高校に入学し、フォードの青いトラクターのある広大な農場

で、昨年九月に発足した菅内閣において法務副大臣に就任いたしました。天皇陛下の認証を受け、国家の中核で働けることに大きな感慨を感じております。

北陵高校で教育していただいたお蔭であると、深く感謝いたしております。農家の長男は家業を継ぐことが当たり前の時代でしたので、歴史ある真岡農業高校に入学し、フォードの青いトラクターのある広大な農場

で、昨年九月に発足した菅内閣において法務副大臣に就任いたしました。天皇陛下の認証を受け、国家の中核で働けることに大きな感慨を感じております。

叙勲おめでとうございます

叙勲おめでとうございます
昭和三十七年度卒 上 野 玄 一



令和元年度春の叙勲に於いて図らずも旭日双光章（地方自治功労）の栄に浴し身に余る光栄でございます。

叙勲受賞伝達式が、同年五月二十三日に栃木県公館で行われ二十九日には皇居宮殿の豊明殿で新天皇陛下に拝謁の栄誉を賜り誠に感激の極みでございます。

これもひとえに皆様の多年にわたるご懇情ご支援の賜とありがたく心より感謝しております。

私のこれまでの振り返りますと、現在の真岡市柏田に生まれ育ち昭和三十四年に農家の長男は農

学校への父の一言で真農に入學し同校五十二回卒であります。

卒業後は、農業に従事し青年団活動を初め農協理事、農業委員、県少年指導委員などを務め多くの人と出会いがあつて、有形無形の絆が生まれ平成十一年に地域住民の衆望を担って真岡市議会議員に立候補して初当選。以来四期十六年間にわたり存職し、副議長・議長を務めさせて頂きました。

この度の叙勲受賞は、私に、大好きな故郷真岡のため更に尽力しようとの意味で与えられたものと感じております。

現在、私は幸い至って健康でありますので今後この榮譽に恥じることのないよう一層の精進を重ねる所存でございますのでこれからもよろしくお願ひいたします。

結び、真岡北陵高校の更なる発展と同窓生、在校生の益々の活躍をご祈念申し上げます。

や気象災害では、あまり作柄に影響を受けなくなりました。天候に恵まれた令和元年度では、私にとっても驚きのは、一〇アール当たり約九・三トンの収量が有りました。それが受賞の一番の理由になったと思います。

作物にとって一番重要な物は根であり、それを張らせる土でもあります。在校生の皆様は、これからの人生に大事な、根となり土となるものを、高校生活の中で育ててください。



イチゴ王国グランプリ 大賞を受賞して

昭和四十六年度卒 杉 山 和 敏

真岡農業高校を卒業して、五十年が経ちました。多感な高校生時代を共に過ごした同級生とは今も親交が有り、時々集まっては昔話に花を咲かせています。

令和元年に行われた第十三回イチゴ王国グランプリにおいて、栄えある大賞をいただきました。思いもかけない受賞でありましたが、長年わたりのイチゴ作り続け

てきたご褒美だと思つて、有難く頂戴致しました。私が経営を引き継いだのは二十歳の時で、試行錯誤の連続でした。特に連作障害には、悩まされました。

そんな時に地元仲間と土作りの勉強会を立ち上げました。幸いにも講師の先生にも恵まれて、土作りのイロハから学び直しました。

その際つくづく思つたのは、「高校の授業をもっと真剣に聞いておけばよかったなあ」という事でした。当時、土・肥料の授業は、もともと退屈なものでした。

実際に必要になってから、その重要性に気が付きました。それからは勉強と実践を繰り返して、何とか作柄が安定して来ましたが、今では多少の天候不順



杉山さんご夫妻、大賞に輝く!! あわせて農林水産大臣賞も受賞! 第13回いちご王国グランプリ



令和元年度春の叙勲に於いて図らずも旭日双光章（地方自治功労）の栄に浴し身に余る光栄でございます。

市議会議長就任おめでとうございます



仲間恵まれて

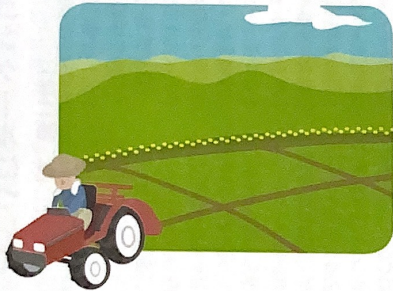
昭和五十七年度卒 大瀧 和弘

「光陰の如し」とはよく言ったもので、本校を卒業して三十九年の歳月が流れました。在学中はバスケットで練習に励みながら、測量競技や作物クラブにも所属し、成苗一〜三本植えの研究にも取り組みました。卒業後は東京での学生生活を送った後に就農しました。ほどなくして入会した四日クラブや青年団では、活動を通して多くの仲間との出会いがありました。

その頃、栃木の農業青年海外派遣研修の機会に恵まれ、アメリカの大規模農業経営を視察しました。二千四百ヘクタールに十万頭の肉牛を肥育しているハリス牧場や、二千八百ヘクタールのコメ農家である園田農場の視察は三十年以上経過した今でも鮮明に覚えています。日本の農業とアメリカの大規模な農業経営の違いを目の当たりにして、日本はアメリカと、ともに競争はできないし、はいていけない相手であると感じてきました。

その後の農協青壮年部活動では、栃木県農協青年部連盟の委員長として全国農協青年組織協議会に出向しました。印象深いのは、JAビルに集い水田農業政策検討委員として、食料安全保障の確立など、政策提言を全国各地の仲間と取りまとめたことです。そして、永田町の自民党本部に出向き、保利耕輔自民党政調会長に提言書を手渡ししてきたことでした。こうした多くの経験も、恩師の今は亡き稲葉光國先生から「新聞の社説を読ん

「今日あるを感謝し、最善をつくす」を胸に、これからの地域の発展として、本校発展のために力を尽くしていきたいと思えます。



優良同窓生紹介

本校卒業後の人生回顧！



昭和四十六年度卒 江間田 信一

令和三年の新春を迎え真岡北陵高校と同窓会の皆様、誠におめでとうございませう。

今回、同窓会会報「北陵」に寄稿依頼を賜り光栄に存じております。

さて、顧みますと私は昭和四十六年度に本校を卒業後、両親の奨めにより栃木県農業短期大学（現栃木県農業大学校）に進学し卒業後、栃木県

酪農業協同組合連合会に就職、その後県内酪農協の再編に伴い、六酪農協が合併した酪農とちぎ農協に転入し定年を迎え四十一年間、栃木県酪農の振興と発展に携わってきました。今や、栃木の酪農は全国でも生乳生産量で北海道に次いで第二位となっております。

定年後は、家業の農業を継ぐこととし、現在の酪農業協同組合連合会に就任、その後県内酪農協の再編に伴い、六酪農協が合併した酪農とちぎ農協に転入し定年を迎え四十一年間、栃木県酪農の振興と発展に携わってきました。今や、栃木の酪農は全国でも生乳生産量で北海道に次いで第二位となっております。

定年後は、家業の農業を継ぐこととし、現在の酪農業協同組合連合会に就任、その後県内酪農協の再編に伴い、六酪農協が合併した酪農とちぎ農協に転入し定年を迎え四十一年間、栃木県酪農の振興と発展に携わってきました。今や、栃木の酪農は全国でも生乳生産量で北海道に次いで第二位となっております。

仲間と歩む



平成元年度卒 高橋 真一

私は、平成二年三月に真岡農業高校を卒業いたしました。自分の家は水稲二ヘクタール・トマト一八アール・イチゴ三〇アールを経営する専業農家でした。家族経営の中でこの面積を営営するのは大変だったと思います。自分も農家の長男として将来は農業をするんだらうな程度で農業高校へ入学しました。実習の時間は楽しかった記憶があります。何故なら一緒に栽培できる仲間がいたからだと思えます。いろいろな経験や知識を得るため

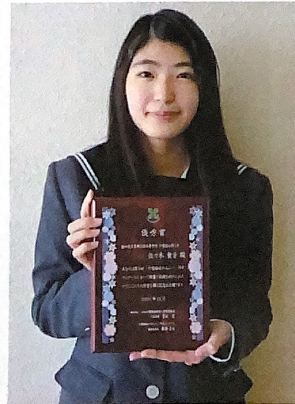
平成五年に就農し、消防団や四日クラブ・JA青壮年部などに加入し地域や農業者の若手と交流の為に努力してきました。平成七年にイチゴをやめ、三アールのロックウール栽培のトマト温室、平成九年に二五アールのロックウール栽培のトマト温室を補助事業で導入しました。

その後、直売部会副部長やトマト部会副部長

生徒の活躍

楽しい人生だったと思ってもらえる 介護を目指して

二年五組 佐々木 愛音



第五回介護福祉の未来作文コンクールで、多くの作品が集まった中、私の書いた「楽しい人生だった」と思ってもらえる介護を目指して」を、優秀賞に選んで頂けたことを心から嬉しく思います。

私の書いた作文は、曾祖母との思い出や、その経験から学んだことについてです。

私の曾祖母は、昨年の新年を迎える前に他界しました。特別老人養護老人ホームに入所していた曾祖母は、最初元気でしたが、状態が悪化し寝たきりになってしまいました。曾祖母は、家族のこころをしっかりと認識

かなどの監査を行っておりませう。

地元では、営農組合（米麦の収穫作業を主にやっている組織）活動もっており、庶務会計業務を担当しています。収穫作業六〇ヘクタールのスケジュール調整や作業料金精算業務を主にしております。農業取り巻く環境は高齢化・後継者不足に伴い不耕作地の解消などを図るため、農地管理をすべて請け負うことが

できるよう法人化を目指すことが課題となっております。

また、二〇一八年四月に行われた芳賀町議会議員の選挙において当選させていただき、任んで良かったと思えるまちづくりに目指し、議員活動に取り組んでおります。

芳賀町は人口二五〇〇〇人程度ですが、芳賀工業団地内百五十社の企業が立地され、二〇二二年はLRT（路面電車）が開

通される町でもあります。これからも自分を信じて、粘り強く働いていき、地域が安心して暮らせるよう強い農業づくりと地域活性化のために一生懸命取り組み参りますので皆様のご指導程よろしくお願ひいたします。

結びに、真岡北陵高校と同窓会のみならずの発展と在校生の皆様のご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

栃木県高校生溶接コンクールについて

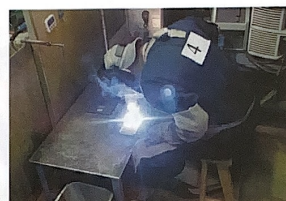
二年二組 榎 木 岐 二

私たちが農業機械科代表三名(二二榎木岐二、谷口聖連、一渡邊倫)は、令和二年十月二十四日(土)、栃木県立真央産業技術専門学校で開催された「とちぎものづくり技能競技大会溶接の部(第一一回栃木県高等学校溶接コンクール)」に参加しました。

今年の大회는、新型コロナウイルスの影響で、例年よりも開催時期が二週間ほど早くなるということになりました。大会に向け練習してきた私たちが、その話を聞いたときはとても焦りました。それは、四月からの

一斉休校の影響で二月の間練習ができていないことに加え、開催が早くなったために学校での練習がほとんどできなくなりました。練習ができてきず、きちんとできるのか不安だったためです。しかし、そのような状況でしたが、二年生は昨年の溶接コンクールに向けての練習を一つ一つ思い出しながら、手順やコツを確認し、一年生は初めて溶接をやるということで、覚えることや気を付けることが多く大変だったと思います。二年生がやり方などを教えるなどし、三人で限られた時間の中で練習に励むことができた。

大会当日、県内六つの高校から十八名の出場者が行われました。緊張の中で競技でしたが、三人とも練習の成果を出すことができました。結果は、優良賞で、目標とできた関東大会出場に届きませんでした。三人で協力しながら練習してきたことはとても良かったと思います。最後に、放課後遅くまで御指導していただいた農業機械科の先生方、溶接協会の方に感謝いたします。ありがとうございました。



とちぎものづくり選手権に出場して

二年一組 松 本 季良々

私は、令和二年十月十四日(土)に栃木県立真央産業技術専門学校で開催された「とちぎものづくりフェスティバル2020(とちぎものづくり選手権)」において、フラワー装飾部門に出場しました。昨年この大会に出場し、同部門で惜しくも入賞を逃してしまいましたが、思いがけず今年も入賞できるような日々練習してきました。この大会ではフラワー装飾部門においては、課題が出され決められた制限時間内で制作を行い、制作終了後は審査するための審査台へ移動させます。大会当日は、とても緊張

をしながら、自分の作品に自信を持って大会に臨むことができました。大会本番前、会場には作品制作の準備がされていて、「大会なんだ」と実感するのと同時に異様な雰囲気を感じました。自分の作品準備が始まり、一人一人の花材が配布されました。課題①のバスケットアレンジに使用する二種類のカーネーションと課題②でも使用するビット、レザーファン、ブートニアに使用するデンファレの計五種類の花材が配布され、準備時間内で花材の交換などを行いました。準備が完了し本番に入ります。まず、課題①のバスケットアレンジでは、制作時間三十分で半円型を描くように制作を行います。今回のバスケットアレンジは、かごの大きさが練習の時よりも一回り小さく焦りもありましたが、無事に作品を完成させることができました。しかし、作品を



審査台に移動させた際に花が落ちてしまい、とても残念な気持ちになりました。課題②のブートニアでは、制作時間二十分で三角形をイメージして制作します。ブートニアは練習をしながら同じ時間配分とバランスで行うことができ、花が落ちることも外れることもなく完成できたのでとても良かったです。この結果、銅賞をいただくことができました。

今大会で私が学んだことは、練習をたくさん行うことで自分に自信が身に付き、他校の生徒にも負けずに取り組みることができるということです。昨年は入賞を逃して悔しい思いをしましたが、今年練習を積み重ねたことで入賞を勝ち取ることができてとても嬉しかったです。これからもこの経験を活かし、日々の練習に励むことでよい作品制作につながるよう、次の大会でも入賞できるような頑張りたいと思います。

関東選抜大会に出場して

二年四組 山 崎 凜 風

私は、令和二年十一月二十一日(土)から十一月二十二日(日)にかけて神奈川県伊勢原市で開催された第一八回関東高等学校ライフル射撃競技選抜大会にチーム・ピストル少年女子立射六十発競技に出場しました。県代表として出場する大会では、ピストル競技者として初めて大きな大会の出場でした。緊張や責任を感じながら毎日目標を立てて一生懸命練習に取り組まれました。大会に向けて、毎日練習に取り組みましたが、一日一日の競技への思いや構え方、点

数の伸び悩みなど挫けそうになることが多くありました。私が、チーム・ピストルを撃ち始めたのは七月中旬で自分の射撃に自信が持てませんでした。しかし、今までは大会で良い成績を残すことができない。また、ピストル競技に慣れることもできないと思いましたが、そのため、少しずつ気持ちを切り替え、自分の思い描く射撃ができるように調整を行いました。いつもとは違う雰囲気や気持ちの変化に対応できるようにメンタル面の強化にも取り組みまし

た。大会当日、伊勢原射撃場は射座内がコンクリートで足元が滑り撃ち辛かったです。また、ピストルの標的位置が若干ずれたいため、立ち位置に悩みました。照明もいつもより明るく目慣れをするのに大変でした。私は、五射群目で待機時間がとても長く感じました。撃つ順番の直前になるといつもとは全く違う感覚になりました。射座に入り、試射の時間が始まりました。いざ撃ち始めるのと緊張で銃口が揺れてしまい、黒点に入りませんでした。気持ちを落



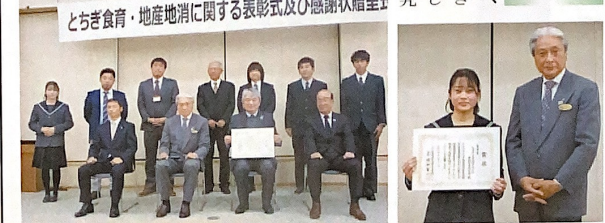
ち落ちて着かせて、一発一発丁寧に撃ち、段々と緊張や大会の雰囲気慣れしてきました。本射は十点センターで、余計に緊張はしましたが、五シリーズ目までしっかりと切り替えて撃つ事ができました。六シリーズ目で五点と六点を撃ってしまっても焦りませんでした。チームの皆が応援する姿を見て最後まで諦めず撃つことができました。しかし、最終シリーズで点数を落としてしまいました。結果は、三位入賞でした。二位の選手とは同点でしたが、センター数で惜しくも負けてしまいました。全国選抜大会への切符も獲得することができ

二〇二〇年とちぎ地産地消夢大賞「優秀賞」

三年三組 沖 杉 采 香

私たちは「とちぎ地産地消夢大賞」で優秀賞をいただくことができました。現在私たちが活動している活動内容を高く評価していただきました。主な活動内容は、「全国いちごサミットin おか2020」の参加に向け、二〇一八年度から三年にわたる地元の特産品であるいちごの活用や商品開発、県内外に対してのPR、消費拡大を目標に活動を展開しました。これらの活動は真岡市・道の駅・JAはが野・企業と連携することで、地域における活動の輪を

私たちが「とちぎ地産地消夢大賞」で優秀賞をいただくことができました。今年、新型コロナウイルスの影響で、様々なイベントが中止になり、レシビの試作は調理の制限があるなど、今までのようにはいきませんでした。したが、行うことができました。今回このような素晴らしい賞をいただくことができ、これから活動の励みになりました。最後になりませんが、協力



とちぎ食育・地産地消に関する表彰式及び感謝状贈呈式

北陵高農産物は安心・安全!

GLOBAL G.A.P. 認証

生物生産科 果樹担当 廣田真人
作物担当 渡辺修平



外部審査の様子

二〇二一年に延期された東京オリンピック・パ

ラリンビックの食材提供に関する条件として注目され、農業関係高校では青森県立五所川原農林高等学校が先駆けて取得してきたGLOBAL G.A.P.の認証を本校農場でも取り組んでいます。二〇一八年から作物部でコメを、二〇一九年から果樹部で

「い!」という思いを持ってくれたため、取り組むことができました。コメは三年連続、農産物の安全性・環境の保全・労働者の保障に関する二百八項目すべての事項で指摘なしの快挙を成し遂げることができ、今年度も認証書を頂くことができました。このことは取り組んだ生徒全員の励みになるはずで、北陵産農産物は安心・安全!これからも地域に愛される学校を目指し、G7教育をとおして持続可能な農業教育をこれからも推進していきます。

各科の近況

生物生産科

科長 高橋 由起

生物生産科では、農業経営や農業関連産業のスペシャリストの育成を目標としており、学習活動に取り組みんでいます。本年度は、年度初めに緊急事態宣言による全国一斉休校にはじまり、その後、さまざまな行事が中止・自粛となりました。その中でも、生徒たちは農作物や家畜と向き合い、やるべきことを一杯取り組んでいきたいと思います。本

生物生産科では、農業経営や農業関連産業のスペシャリストの育成を目標としており、学習活動に取り組みんでいます。本年度は、年度初めに緊急事態宣言による全国一斉休校にはじまり、その後、さまざまな行事が中止・自粛となりました。その中でも、生徒たちは農作物や家畜と向き合い、やるべきことを一杯取り組んでいきたいと思います。本年度、生徒たちが取り組んだ内容についてご紹介いたします。GLOBAL G.A.P. 認証について 昨年度に引き続き、果樹部門のニホンナシと作物部門のコメ(コヒヒカリ)にGLOBAL G.A.P.の継続認証を受けることができました。この活動には果樹専攻生と作物専攻生を中心に、安心・安全な農作物の生産について学ぶことができました。

GLOBAL G.A.P.を三年連続で取得することもでき、農場としても大変有意義な取り組みとなりました。 ②シクラメン品評会 金賞・銀賞受賞 十一月に栃木県シクラメン&冬の鉢物品評会に本校のシクラメンを出品しました。その結果、ピアスで金賞、アポロで銀賞をいただくことができました。草花専攻生が日頃より葉組みの作業に取り組んだ成果であると大変うれしく思っております。また、二年生の草花専攻生がフ

◀コメの袋づめ実習



▼ドローンによる薬剤散布



GLOBAL G.A.P. の認証を目指して

三年一組 作物専攻 高松 舞花
小倉 彩 愛



書類審査の様子

私たちが、作物専攻生は男子三名、女子四名の計七名と渡辺先生、齋藤先生の指導のもと、GLOBAL G.A.P. 取得に向けて、コメの栽培に取り組んできました。

作物専攻では、二〇一八年よりGLOBAL G.A.P.を取得しつづけて、今年度で三度目の認証となります。新型コロナウイルスの影響により、学校が休校となり育苗や田植えの作業を行うことができず、今年度のGAP認証は難しいと思いましたが、休校あけから作物専攻生みんなで協力して、GAP認証に向けて一生懸命取り組んできました。GAP取得に向けて役割を分担し、分担毎に活動し責任をもってコメ栽培に取り組んできました。十月一日にGAPの審査があり、今まで栽培してきたことを一つ一つ審査員に説明してきました。二百八項目の審査内容をすべてクリアし三年連続指摘事項なしで認証を取得することができました。GAP審査では、たくさんの質問事項に答えることが大変でしたが、今まで取り組んできたことをきちんと説明することができ、よい経験となりました。

GLOBAL G.A.P. の認証を目指して

三年一組 果樹専攻 武田 桃果
石川 あいり

私たちが果樹専攻生は廣田先生、大山先生のご指導のもと、男子一名、女子五名の計六名で一年間果樹の実習を通して昨年からの先輩達と取り組んできたGLOBAL G.A.P.の継続認証を目指してきました。なぜ、安心だと思えるのか。何を根拠に安心と言えるのか。これは私たちが果樹専攻生が一年間考えてきたテーマです。消費者にとっての安心は「食品安全」、環境にとつての安心は「環境保全」、働く人たちの安心は「労働安全」。この三つの安心・安全を実現し、多方面で持続可能な農業を実践するためにGAPがあるのだと思います。果樹専攻生それぞれが安心・安全な農産物を生産するために実習や書類作成、清掃、知識を身につけるための勉強に励んできました。しかし、取得したいと思つた矢先今年度は新型コロナウイルスの影響で冬から春にかけて行つ、せんだや摘果等の作業に携わることができませんでした。悔しい思いもありましたが、でき

ることだけでも積極的に取り組んできました。その結果、無事に二年連続認証を頂くことができました。私たちが衛生管理・安全意識において「あたりまえ」だと思つたこと、これは世界では「あたりまえ」に該当しないことをGAPの活動をおとす学びました。日本はどの国よりも衛生・安全により高い意識を持っていることを感じました。この経験をこれからの人生に生かしていきたいです。



▲銀賞のアポロ



▲草花専攻生とシクラメン



▲ものづくり選手権にて

ニホンナシのGAP審査の様子

三団体の活動内容

生徒会長として

三年二組 中里 峻輔

私が生徒会長に任命されてから一年が経ちました。希望と不安が入り混じるなか、生徒会活動が始まりました。就任した当初は私に会長が務まるのか心配でしたが、たくさんの人に支えられて、ここまでくることができました。しかし、新型コロナウイルスの影響によりほとんどの行事がなくなりました。

例年であれば、六月に行われる体育祭では多くの生徒の活動が見られ、北陵祭では校内公開・一般公開と大いに盛り上がっていました。この二つ以外にも予備会や壮行会があり、その度に役員

皆で協力しながら活動してまいりました。行事がなくなり、友人や先生方との楽しい時間、例年のような「あたりまえ」の日々を失いました。

二〇二〇年は全世界で新しい年になりました。人と距離を保ち、うがい手洗いはもちろん、人混みを避け家庭での時間を多くするステイホーム。新しい生活様式を学校でも行いながら一日を充実させようとする生徒が多くなりました。このような生徒が増えたのは、臨時休校を経て学校生活を楽しんでくることができたこと、そして、新しい生活様式を各行事に取り入れ、新型コロナウイルスと戦いながら真岡北陵高校をより一層発展させ、生徒全員が充実した学校生活を送れるよう活動してほしく思っています。最後になりましたが、今まで支えてくれた生徒会の皆さんや先生方に心から感謝します。本当にありがとうございました。

生徒会活動報告

顧問 手塚 宗恵

今年度の生徒会活動について、ご報告いたします。今年は新型コロナウイルスの影響で例年と異なる範囲で行いました。

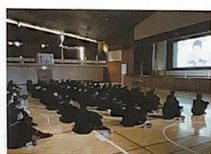
一学期は緊急事態宣言により、生徒の登校が六月からなくなってしまい、ほとんど活動ができませんでした。そのため例年四月に行っていた行事は六月に行いました。対面式は放送で行いました。部活動紹介は、昼休みの時間に各部活動から放送

で紹介をし、一年生が各自で放課後に見学に行く形で実施しました。

二学期は文化祭ではなく、文化部発表会が行われました。茶道部のお点前、演劇部の劇、吹奏楽部の演奏を事前に録画したものを学年毎に鑑賞しました。限られた時間の中で準備でしたが、各部活動、生徒会役員の協力のもと素敵な動画を見ることができました。また、華道部・写真部・福祉部の介護実習ポスター



福祉科展示



体育館様子



茶道部



吹奏楽部



華道部



演劇部

農業クラブ会長として

三年三組 沖杉 采香

私は、高校1年生から農業クラブ役員として活動し、今年も農業クラブ会長という立場で活動に携わらせていただきました。最初は会長という責任の大きな大役が、本当に私に務まるのか不安でいっぱいでしたが、顧問の先生方や役員仲間など、多くの方々に支えていただきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、予定されていた活動が出来なかったり、県連の役員会がZOOMでのリモートになったりと、これまでの農業クラブ活動とは異なる活動環境でした。臨機応変に対応することも多く、自分たちには何ができるのかを考える機会が多々あったと思います。また、農業クラブ役員である私たちが何かができることがあるのではないかと考えました。そこで、コロナ禍で最前線に立ち、行動した経験を活かして、本校で栽培している所管の健康・福祉センターへ本校で栽培しているシクラメンを送りたいと考え、直接お渡しすることができました。センターの方々は見ていると力が湧いてきます。と、とても喜んでくださり、こちらも嬉しい気持ちになりました。

農業クラブの活動で、人の繋がりの素晴らしさや、置かれている環境の中で、自分たちが出来ることを考えることの大切さを学びました。

会長としての役目が終わりに近づき、寂しい気持ちもありますが、私に引き継いだ後輩たちに学び得た物を伝えていくことだと思います。また、農業に関する知識だけでなく、これから社会生活を送る上で大切なことを経験しました。私からこれまで培ってきた経験を大切にして、これからも邁進していきなさいと思います。

最後になりましたが、ご指導いただいた先生や、クラブ員、温かいご支援ありがとうございました。今後の農業クラブ活動が、真岡北陵高校の益々の発展へ結びつきますよう祈念しております。本当にありがとうございました。

農業クラブ活動報告

顧問 菅原 礼太郎

- 4/16 会務と事業
- 7/6 第一回役員会(各校役員署名にて実施)
- 7/6 校内意見文コンクール
- 7/22 意見文コンクール 県大会
- 7/29 校内農業俳句コンクール
- 9/10 農業俳句コンクール 県大会
- 11/11 第二回役員会(各校役員署名にて実施)
- 12/11/27 立会演説会 選挙投票日
- 12/14 第三回役員会(ZOOMにて)
- 12/14 栃木県学校農業クラブ連盟 県表彰式

- 1/15 新役員研修会(ZOOMにて)
 - 12/14 栃木県学校農業クラブ連盟 県表彰式
 - 1/20 校内プロジェクト発表会(動員・審査なし)
- 活動報告
- 校内意見文コンクール
- 新型コロナウイルス感染症のため、今年度は意見発表会ではなく、意見文コンクールを実施しました。自分の農業に対する思いを原稿にまとめ、どれも素晴らしい作品でした。上位三名は県大会に出品しました。最優秀賞 あなたの将来の夢は何ですか 農業機械科三年 渡辺 佑馬

- 1/15 新役員研修会(ZOOMにて)
 - 12/14 栃木県学校農業クラブ連盟 県表彰式
 - 1/20 校内プロジェクト発表会(動員・審査なし)
- 校内意見文コンクール
- 新型コロナウイルス感染症のため、今年度は意見発表会ではなく、意見文コンクールを実施しました。自分の農業に対する思いを原稿にまとめ、どれも素晴らしい作品でした。上位三名は県大会に出品しました。最優秀賞 あなたの将来の夢は何ですか 農業機械科三年 渡辺 佑馬

- 校内農業俳句コンクール
- 県連盟で県大会の代わり
- 何かに生徒のために実施できるものはないかと考え、日頃の農業での経験や感じていたことを俳句にして、発表会を実施する運びになったので、校内で予選を聞きまし
- 個性があふれ、とても読み応えのある俳句が多かったです。上位十名は県大会に出品しました。
- 特選
- トマト圃場泥まみれの服母激怒 三年一組 大塚 りせ

- 栃木県学校農業クラブ連盟 県表彰式
- 汗流し女を捨てて農作業 二年一組 眞田 稀央
- 農場にヒクラシ鳴く声

- 優秀賞(クラス順)
- みんなを案にできる農業 農業機械科二年 黒子 雄大
- 郷土料理を伝えていき 食品科学科三年 渡辺 佑馬
- 「分野・II類」
- みんなを案にできる農業 (優良賞) 農業機械科一年 黒子 雄大
- 「分野・III類」
- 郷土料理を伝えていき (優秀賞) 食品科学科三年 沖杉 采香
- 栃木県学校農業クラブ連盟 県表彰式
- 汗流し女を捨てて農作業 二年一組 眞田 稀央
- 農場にヒクラシ鳴く声

- 栃木県学校農業クラブ連盟 県表彰式
- 汗流し女を捨てて農作業 二年一組 眞田 稀央
- 農場にヒクラシ鳴く声

令和二年度	農業クラブ役員一覧	会長	沖杉 采香
副会長	桑原 美空	書記	山田 実果
監事	深谷 了直	庶務	橋本 龍輝
	高橋 了直		藤井 優雅
	鈴木 未優		堀井 大翔
	驚果 友哉		友哉
	鈴木 未優		廣木まどか
	廣木まどか		木みずほ
	上野 杏樹		奥野 玲夏
	大野 大地		大野 大地
	上野 杏樹		上野 杏樹
	高橋 了直		高橋 了直
	榎本 優貴		榎本 優貴
	早川 聖汰		早川 聖汰
	細谷 慶次		細谷 慶次
	谷口 聖汰		谷口 聖汰
	稲葉 隼輝		稲葉 隼輝
	大根田 一紗		大根田 一紗
	本田 裕太		本田 裕太

家庭クラブ会長として

三年五組 小林 陽 依

私は昨年度から家庭クラブ役員として活動し、これまでに多くの経験をさせていただきました。今年度は家庭クラブ会長という立場で活動させていただきます。最初は、このような責任のある役目を果たすことができたのかという不安ばかりでした。しかし、顧問の先生や福祉科の先生方、役員の仲間など多くの方々に支えられ、最後ま

で役目を果たすことができました。家庭クラブの校内活動としては、エコキャップ回収や災害ボランティア勉強会、調理や着付けの講習会などがあります。校外活動としては、県連の様々な行事に参加しています。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により例年と同じような活動することができなくなり、季節に合わせた

装飾を施しています。細かな作業に苦戦していた時もありましたが、何よりも老人給食サービス事業を利用されている方々からの感謝の言葉が嬉しく、さらによりよいものを作りたと思うようになりまし。このような状況になったからこそできたこともあり、とてもよい経験になりました。最後にありますが、先生方をはじめ、役員の方々、会員の皆さん、温かいご支援ありがとうございました。

家庭クラブ活動状況について

顧問 田崎 朋子

家庭クラブの活動状況について、ご報告申し上げます。今年度はこれまでと大きく異なった活動となりましたが、生徒達ができる範囲で懸命に取り組んだ活動として「真ごころカード」制作・配布があります。

新型コロナウイルスの影響で様々な活動が中止となる中、地域の高齢者

に向けたカードを手作りしています。そして、真岡市社会福祉協議会のご協力のもと、協議会が行っている「老人給食サービス事業」に合わせ、カードを一人暮らしの高齢者のもとへ毎月配っていただいています。

年度当初は、休校、分散登校となり、新しい生活様式が求められ、生徒

の活動も制限されることになりました。しかし、生徒達は「今だからできる活動はないか?」「私たちがだからできる活動は?」と、今回の状況を前向きに柔軟に対応しようと一生懸命模索する姿がありました。そこで、始まったのが「真ごころカード」です。読む人が読みやすい文字の

大きさや色、外出がままならなくても、移ろいゆる季節を感じてもらえるように、季節の折り紙や切り紙をカードに貼り付けました。この活動は今では家庭クラブだけでなく、「保育」を学んでいる生徒やボランティア部員も賛同し、多くの北陵生が関わる活動に広がりました。

このカード配布後、地域の方々から温かいメッセージやプレゼントをいただき、反響の大きさに驚くと共に、制作された生徒達も励まされ、ますますの意欲に繋がっております。

最後になりますが、援ご協力をお願いします。



真ごころカード10月



寄せられたお礼の一つ



カードの受け渡し

最後にありますが、援ご協力をお願いします。

進路室から

進路指導部長 藤田 将輝

生徒たちの弛まぬ努力と保護者の皆様のご協力、そして同窓会の皆様や地域の皆様のご支援のおかげで、本校の令和2年度進路状況は、昨年度同様概ね良好でした。はじめに就職の状況をご報告いたします。昨年度と比べると、新型コロナウイルス等の影響により、求人をおいただいた企業数は減っています。企業一社で採用する人数が減少傾向となりました。企業見学・採用試験もオンラインで行う企業があり、教職員も対応に追われることとなりました。

この厳しい状況下でも、「ぜひ真岡北陵高校から採用したい」と地元の製造業を中心に多くの求人をおいただきました。求人のなかには、本校の卒業生だという方が何人もおられ、真岡北陵高校同窓生の脈々と受け継がれる歴史と伝統、先輩方の活躍と絆を強く感じた一年でした。中には、高卒求人をお初めに出すという企業や、十数年ぶりに高卒の求人を出すという企業もありました。最終的には、四百五十社以上の県内企業の求人票が届けられ、私立大学・短

き、自分の適性に合う仕事を眺める姿が印象的でした。十一月末の時点でほとんどの生徒の内定が決まりましたが、生徒たちは卒業まで気を抜くこと無く、最後まで「教科の学習」プラス「社会人としてのマナーの習得と常識力の向上」に努めておりました。面接や作文等、様々な形でお世話になった先生方から教えていただいたことと合わせ、春から即戦力として就職先の皆様の期待に応えてくれることを確信しております。

続いて進路の状況です。二年連続で国立大学合格、私立大学・短期大学合わせて十四名が進学し、各専門学校へは三十七名が進学いたしました。例年と比較すると、栃木県内の学校への進学者が大半を占める結果となりました。また、本校で学んだ専門的な知識や技術をさらに深めるための進路選択をした生徒が多い学年でもありました。四年制大学・短期大学に進学する生徒の数は増加し、自分の興味関心に合った専門学校や専修学校を真剣に選び、オーブンキャンパスにも積極

的に参加した生徒が多く見られました。卒業後の就職も見据え、明確な志望動機と将来の目標について語ってくれた生徒たちの凛々しい顔を思い出すと、進学先でも熱心に学びを深める姿が目浮かびます。各進学先で、夢を叶えるための有意義な学びを続けてほしいと思います。

今後も生徒の希望する進路実現の力になれるよう、さらなる進路指導の充実に向けて参りたいと思います。一年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

令和2年度 3年生の進路状況

(1月31日現在)

在籍数	学科名		男子		女子		合計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生物生産科		15	23			38	
	農業機械科		39	0			39	
	食品科学科		6	30			36	
	総合ビジネス科		14	21			35	
	教養福祉科		3	18			21	
	合計		77	92			169	

就職	学科名		公務員		県内		県外		合計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生物生産科		0	0	7	18	0	0	7	18
	農業機械科		1	0	27	0	1	0	29	0
	食品科学科		0	0	3	20	1	1	4	21
	総合ビジネス科		0	0	3	12	1	1	4	13
	教養福祉科		0	0	3	16	0	0	3	16
	合計		1	0	43	66	3	2	47	68

進学	学科名		国立大学		私立大学		私立短大		専修・専修学校		未定	合計		
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子				
	生物生産科		1	0	1	0	0	0	6	4	0	1	8	5
	農業機械科		0	0	4	0	0	0	6	0	0	0	10	0
	食品科学科		0	0	1	1	0	1	1	6	0	1	2	9
	総合ビジネス科		0	0	2	1	1	1	7	5	0	1	10	8
	教養福祉科		0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	合計		1	0	8	2	1	2	20	17	0	3	30	24

編集後記

同窓会会報「北陵」第四十四号をお届けします。お忙しい中、皆様にはご寄稿いただきまして深く感謝申し上げます。さて、令和2年度は新型コロナウイルスに悩まされた一年でした。未だ終息する見通しは立っていません。その影響は、生徒たちの学習や諸活動(運動面・文化面)にも計り知れないものがありました。生徒のみならずには、先生方と共にこの困難を乗り越え、未来に大きく羽ばたいてください。今後の活躍に期待しています。

(昭和四十五年卒業 小堀 辰夫)